

第1章

割合の基本

割合は SPI のみならず、就職活動における採用テスト全般で超重要テーマです。市販のテキストで「損益算」「料金の割引」「濃度」「分割払い」などのように異なるテーマとして紹介されていたとしても、これらは全て割合の理解が前提になっているものです。したがって、割合の基本は確実に頭に入れておかなければいけません。中学校までに勉強している方が大半だと思いますが、忘れていない部分がないか、確認しておきましょう。

なお、ここで紹介する「割合」とは「3倍」や「 $\frac{1}{2}$ 」という表し方（倍率）のことを指します。「3:1」のような比も割合の仲間ですが、比は出題頻度が低いので、ここでは簡単に指摘する程度にとどめます。

**割合のアプローチ**

- ① どこが「基準」（1とおく量、「もとにする量」）になっているかに注意する。
- ② 「%」、「割・分」が何を表すのかを理解し、小数や分数に置き換えられるようにする。
- ③ 「〇〇増し」、「〇〇引き」の計算方法を確認する。
- ④ わからなくなったら線分図などを書いて考える。

例題

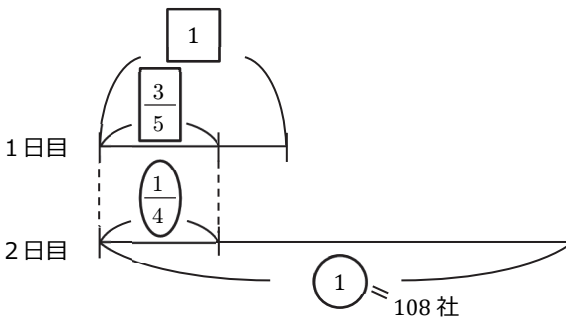
例題 1

ある就活イベントが2日間で行われる。このイベントの1日目に参加する企業数の $\frac{3}{5}$ は、2日目に参加する企業数の $\frac{1}{4}$ と等しいことがわかっており、2日目に参加する企業数は 108 社である。このとき、1日目に参加する企業数を答えよ。

【解説】

正解：45 社

問題文の状況がわかりにくければ、線分図にして把握しましょう。以下のように表せます。



まずは実際の数値が示されている2日目から考えましょう。2日目に参加する企業数が108社で、そのうちの $\frac{1}{4}$ が1日目の $\frac{3}{5}$ と等しいというので、まずは108社のうちの $\frac{1}{4}$ を求めます。そうすると、 $108 \times \frac{1}{4} = 27$ [社] です。つまり、1日目に参加する企業数の $\frac{3}{5}$ が27社であることがわかるので、(1日目に参加する企業数) $\times \frac{3}{5} = 27$ という式が成り立ちます。これを

逆算すると、1日目に参加する企業数は $27 \div \frac{3}{5} = 27 \times \frac{5}{3} = 45$ [社] である
とわかります。

割合（倍率）の基本

割合（倍率）とは「基準（もとにする量）を1としたとき、比べるものの量を表したものです。分数で $\frac{\text{比べる量}}{\text{基準(もとにする量)}}$ と表せます。割合には百分率（%）と歩合（割、分）を使った表し方があるので、以下のように理解しておきましょう。必ず覚えておく必要があります。

百分率（%）	歩合（割・分）
100% = 1	10 割 = 1
10% = 0.1 = $\frac{1}{10}$	1 割 = 0.1 = $\frac{1}{10}$
1% = 0.01 = $\frac{1}{100}$	1 分 = 0.01 = $\frac{1}{100}$



ADVICE

割合の計算は以下のようにして行います。分数や%、割・分の前に「の」が来たら「×」に置き換える、と覚えておくとよいでしょう。下の③④のような「…増し」「…引き」の計算は必須です。「増し」は「 $\times(1+\text{〇〇})$ 」、「引き」は「 $\times(1-\text{〇〇})$ 」という計算で覚えるとよいでしょう。

- | | |
|----------------------------|---|
| ①100円の8%はいくらか。 | $100 \times 0.08 = 8$ [円] |
| ② x 円の25%はいくらか。 | $x \times 0.25 = 0.25x$ [円] |
| ③100円の 20%増し はいくらか。 | $100 \times (1 + 0.2) = 100 \times 1.2 = 120$ [円] |
| ④100円の 3割引き はいくらか。 | $100 \times (1 - 0.3) = 100 \times 0.7 = 70$ [円] |

割合の文章題は何より「基準を正しく把握できるか」に尽きます。問題によってはシチュエーションがややこしく、ケアレスミスを誘うものも出題されますから、くれぐれも注意して検討しましょう。